

道徳教育にかかる評価等の在り方に関する 専門家会議(第5回)

(文部科学省、2015.10.13)

発達障害における困難性の理解

～ASDを中心に～

筑波大学人間系

宮本信也

発達障害における発達問題とは

○ 発達の遅れ

- 同じ年齢のみんなができることができない
- 能力(performance)の問題として現れる

○ 発達の偏り

- 他の人でも見られる状態と頻度・程度が違う
- 行動の程度が超えた問題として現れる

○ 発達の歪み

- 他の人には見られないやり方、理解の仕方
- 理解できない行動として表れる

○ 発達の遅れ・偏り・歪み

- 定型発達児とは異なる発達特性→非定型発達特性

非定型発達特性から見た発達障害の分類

○発達全般の

- 遅れ: 知的発達症 能力 > 行動
- 歪み: 自閉スペクトラム症 能力 < 行動

○発達のある側面の遅れ・偏り・歪み

- ADHD(注意欠如・多動症) 能力 < 行動
- 限局性学習症 能力 > 行動
- コミュニケーション症群 能力 > 行動
- 発達性協調運動症 能力 > 行動

自閉スペクトラム症
自閉症スペクトラム障害
Autism Spectrum Disorder, ASD

(広汎性発達障害 ; Pervasive Developmental Disorders, PDD)

ASDの特徴は

- 自閉症のイメージの変化
 - 会話もするし、友だちとも遊ぶし、集団行動も行う
- では、どんなことが特徴？
 - 状況にあった適切なやりとり行動ができるようになるのがかなり遅い
 - 話題に沿った会話ができるときとできないときがある
 - 一度気に入っていると・気になると、そればかり
 - →
 - マイペース
 - 話が通じにくい
 - しつこい

マイペースな対人行動

- マイペース
- → 相手の気持ちや状況を考えない言動
- なぜ人の気持ちが分からないのだろうか？
- でも
- 本当に彼らは、人の気持ちが分からないのだろうか？

ASDの感情理解

- 分かりやすい感情と分かりにくい感情がある。
- しかも、それが、表情と音声で異なる。



- 感情自体が分からないということではない



- なぜ人の気持ちが分からないのだろう？
- ではなく、
- なぜ、分かりやすい気持ちと分かりにくい気持ちがあるのだろう？

感情認知の問題の背景の一つ

- 表情・プロソディに関しては
- その感情を判別するポイントの情報をうまく使えていない可能性が高い
- →
- 気持ちが分からないのではなく、
- 気持ちを推測する手がかりを使えていないので
- 相手の気持ちに合わせた対応ができない

顔認知に関するもう一つの問題

- ASDの中に
- 顔の区別がつかない人たちが
- 一定の割合でいる

- 自分の母親の顔ですら分からない！
 - → 自閉症だから母親にも近寄らないと誤解されるかもしれない
- 友達の顔と名前を覚えられない
- 級友なのに素知らぬ態度
 - → 態度が悪いと誤解されるかもしれない

何か話が通じない

- 話がかみ合わない
- 話がずれる
- こちらが話した言葉の意味を分かってるの？
- そのことばの使い方、ちょっと違うんじゃない？



- 想像することの苦手さから考えると理解しやすい

想像することの苦手さ

- 目の前に示されていない事柄を考えるのが苦手
 - 示されている事柄だけを手がかりに反応
 - 「とんちんかん」な応答、表面的理解
- 抽象的・象徴的事柄の理解が苦手
 - 言語の意味理解が困難
 - ことばを自分が体験した範囲で理解し使用
 - 思いがけないようなことばの使い方

ことばの「意味」

- ことばを本当に理解するためには、そのことばのコアイメージを理解できなければいけない
- ことばのコアイメージ
 - そのことばの本質的意味を示すもの
 - そのことばが表す全ての状態に共通するもの

ASDの人たちとの会話の落とし穴

- 通じている、分かり合えているようで
- 実は、お互い違う意味で理解していて
- 実は、通じていない
- しかも、そのことに気がついていない
- ということがある！

【参考】

非定型発達特性への配慮

話が通じにくい

- 省略をしない完全な文章で話す
 - 主語と目的語をつける
 - 具体的用語・表現を用いる
 - 冗談は控える・皮肉は言わない
- 代名詞は指示する名詞を付けて使う
 - 「それ」ではなく、「そのコップ」
 - 「この前」ではなく、「先週の水曜日、9月21日」
- キーワードに留意
 - その人にだけ通じる言葉
 - その人が興味を持っているものと関連する言葉が多い

注意されると反発しやすい

- 命令形・大声を避ける
 - 「～しなさい」ではなく、「しよう」
- 肯定的表現・用語で話す
 - 否定的表現は使わない: だめ、違う、変だ、おかしい、など
 - 「間違ってる」ではなく、「そこをこんな風に見てみたらいい」など
- 基本
 - 穏やかに丁寧に話す
 - 「ですます調」で話すのもよい

当たり前前のごとが分らない

- 当たり前前のごとをきちんと説明
 - 「当たり前」「常識的」「見れば分かるだろう」と思われることでも、その都度説明
- その場の状況をことばで説明
 - 目に付く事柄、一つ一つについて(字幕のように)
- 説明は繰り返す行う
 - 10回は繰り返し説明するつもりで